

プログラム
Program

ショパンの名曲と
編曲作品

ショパン:子犬のワルツ
 ショパン:黒鍵のエチュード
 ショパン:ノクターン作品9の2
 ショパン:革命のエチュード
 サン=サーンス:白鳥(ゴドフスキー編曲)
 チャイコフスキー:四羽の白鳥の踊り(ワイルド編曲)
 グレインジャー:「花のワルツ」によるパラフレーズ

休憩

ストラヴィンスキー:「ペトルーシュカ」より ロシアの踊り(連弾)
 三善晃:猪たちの祭り太鼓(連弾)
 三善晃:ファのパヴァーヌ(連弾)
 新垣隆:春と川越に因んだ即興演奏
 新垣隆:コンバット変奏曲

※やむを得ない事情により曲目が変更されることがあります。
 ※小学校入学前のお子様のご入場は、できません。

演奏曲目について *Program Notes*

◆ショパン

ショパンは「ピアノの詩人」と呼ばれています。本当にその通り！
 洗練されていて絶妙な「子犬のワルツ」、右手は黒鍵だけを弾く「黒鍵のエチュード」、抑圧の中から激しさを噴出させる「革命のエチュード」、いずれもピアノ曲として味わい深いです。「ノクターン作品9の2」では、ショパンがレッスンで書き加えた装飾で弾いてみます。

ところで、ショパンがめざしたのは、題名に頼らず「音だけで完結する音楽」。音楽は、いろいろな受け取り方、楽しみ方ができますね。

◆編曲作品

「クラシック音楽で好きなのは『花のワルツ』と、俳優の伊東四朗さんがラジオで話していました。お客さんに喜んで頂ける曲を、編曲作品まで範囲を広げて探すヒントになりました。

ゴドフスキーの「白鳥」は、鍵盤に密着して音色美を追求しています。
 ワイルドの「四羽の白鳥の踊り」では、鮮やかなパッセージに魅了されます。
 グレインジャーの「花のワルツによるパラフレーズ」で、ピアノ編曲ならではの繊細さ、派手さを存分にお楽しみ下さい。

Tetsuhiko Muto 夢藤 哲彦
Piano Recital ピアノリサイタル

◆連弾

ストラヴィンスキーの作品は「大胆」。ピカソの絵のように、素材を変形させて組み合わせる手腕が天才的です。
 ペトルーシュカの「ロシアの踊り」は、計算された野性味が印象的です。曲の途中で、ロシアの歌を変形させて使っています。

「三善晃先生は、シャラン(上級者向け作曲課題集)を少しやってから、自分の曲を作り始める」と、学生時代の新垣隆さんが話していました。今回弾く連弾曲でも、作曲する行為を磨いて究めていると思います。
 「猪たちの祭り太鼓」(音の葉第3巻)は、白い鍵盤だけで弾くように作られており、日本風な音の起承転結が見事です。
 「ファのパヴァーヌ」(音の森)では、背景の和音が変わっても、ファ#の音が続いています。守護天使が優しく寄り添っているかのようです。

わかりにくい男、わかりやすい男、そして…

高校2年の新垣隆さんにピアノを教え始めた時、彼の能力や人柄は全くわかりませんでした。自分からは、あまりしゃべらない生徒でしたから。
 そこで、簡単な連弾曲と一緒に弾いてみたところ、椅子から転げ落ちるほど驚きました。「何だ、これは？」
 初めて見る楽譜を、悪魔が乗り移ったように余裕で弾くんです。「黒人の赤ちゃん」では、もの凄いジャズフィーリング!教室責任者が、様子を見にレッスン室の入口に飛んできたほどでした。

モーツァルトのロンド イ短調をレッスンで弾いた時のことです。繊細なピアノ曲を楽譜通り弾いているのに、新垣さんの演奏は、なぜか変てこなジャズ風でした。

「新垣君、お店で『変な曲』弾くアルバイト始めたのかな？」
 「当たり前!よくわかりましたね。今度、ぜひ!お店に来て下さいよー」
 「普段とは別人みたいに積極的だね。でも、夜のお店で散財する趣味は、ないなあ」
 後日「武中聡」という人物がピアノを弾くレストランに出かけました。おいしいドイツ料理のお店でした。

新垣さんが大学に入る時に渡したメモには「まわりに左右されやすいから、付き合う人を選ぶといいよ」
 うーん、今読むと複雑です。そんな新垣さんを多くの方が気にかけて下さいました。本当にありがたいことです。

そして、私にはひとつの夢があります。
 新垣さんが作った曲から、国民的に愛される曲が現れること。たとえるなら「赤とんぼ」や「夏の思い出」のような愛唱歌。「モルダウ」や「威風堂々」のようなオーケストラ曲。美しいピアノ曲も大歓迎!
 彼の曲が国民的に愛されているのを、いつの日か、この目で見てみたいです。

隆君、いい曲を作り続けて下さい。

夢藤 哲彦